

中国の出稼ぎ家事労働者の生活戦略

—大連でのインタビュー調査から—

董 鑫妮

徳島大学総合科学教育部 地域科学専攻 地域創生分野

E-mail : dongxinni1002@gmail.com

Life Strategies of Female Migrants Working as Domestic Workers in China : Interview Research on Live-in Domestic Workers in Dalian

Xin Ni Dong

Regional Sciences, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima, Japan

Abstract

In the late 1990s, internal migration from rural to urban area became increasingly common in China. By the end of 2011, there were an estimated 250,000,000 migrant workers. In earlier times, most migrants in China were male but more recently, the female migrant population has increased substantially. Along with more nuclear families and aging population in urban areas, there is a shortage of caregivers for family members and a need for paid domestic workers. This paper examines the life strategies of migrant female domestic workers employed in private homes in China. Interviews with eleven domestic workers and two employers living in Dalian city reveal how women protect themselves when they are treated unfairly and how they continuously improve the lives of their own family members and themselves. Another focus of this paper is the care deficit created when migrants must be away from their homes.

Key Words : domestic workers, internal migration, China

1. イントロダクション

近年、中国の都市部では、核家族化・高齢化・夫婦共働きの増加により、高齢者のケア・子育て・家事労働という家庭内で行う再生産労働において、担い手不足の問題が生じている。一方、1990年代の末頃から、農村から都市への「農民工大移動」が顕著に見られるようになり、2011年の時点では、農村から都市への移動人口は全国で2億5千万人に上っていた¹。最初は男性が多く女性が少なかったが、近年、

女性の移動も増えてきた。その中に、家事労働者として働く女性がいる。農村女性の都市への移動は、中国経済のグローバル化による都市と農村の所得格差の拡大によって拍車がかかっている。また、中国の家事労働者を研究した大橋は、農村出身家事労働者の需要は、都市世帯における家事やケアの担い手が不在であることによって引き起こされていると指摘している（大橋 2011）。

中国には戸籍制度と経済格差に根差す農村と都市の「二重社会構造」がある。農村から移動する労働者の戸籍は農村にあることから、社会的に周辺化された立場に置かれている。なかでも住み込み家事労働者は、他人の家庭という閉鎖的な環境で単独で家

¹ 中国国家统计局 HP 「2011 年我国农民工调查监测报告」
2012 年 4 月 27 日
http://www.stats.gov.cn/tjfx/fxbg/t20120427_402801903.htm

事労働を行うことが多いため、孤立しがちで、雇用者のひどい扱いにも曝されやすい。また、女性は家族の中で、高齢者のケア・介護、子育てといった性別役割が社会的に割り当てられてしまっているため、彼女たちが都市に移動することによって留守高齢者、留守児童の問題が生じている。つまり、これらの女性家事労働者は中国の経済発展の中で構造的には弱者であることを余儀なくされている。

実際に先行研究では、農村出稼ぎ家事労働者を「弱者」として扱っているものがほとんどである。王と藍の研究では、知合いや仲介業者の紹介で仕事が見つかった家事労働者は雇用者と雇用契約を交わしていないため、雇用者とトラブルがあっても労働法の保護を受けられないことが多いことが指摘されている（王・藍 2006）。向の研究では、数多くの女性家事労働者は長時間労働、無休、給料不払い、社会保険を受けられないという状況の中で働いている点が強調されている（向 2010）。徐と謝のハルピンの調査研究もまた、多くの家事労働者は賃金が低く、雇用者に差別や虐待をされており、セクハラを受けた経験をもつひとたちがいることを報告している（徐・謝 2008）。

このような先行研究からの指摘は極めて重要であるものの、女性の弱者である面のみが強調されると、彼女たちがそのような状況になんとか対処していこうとする側面が見落とされることになる。彼女たちの各生活場面での奮闘や選択や決定は、単なる社会的弱者という存在だけに還元されるものではないだろう。このような問題関心のもとで、筆者は大連という都市で家事労働者として就労している農村出身の移住女性の生活戦略に着目することにする。彼女たちが移動する原因と就労状況などを明らかにするために、筆者は2011年8月から9月にかけて、大連で住み込みの家事労働者として就労している11名の女性と2人の雇用者にインタビュー調査を実施した。インタビュー調査を通して、家事労働者たちは単なる社会的弱者ではなく、雇用者に対して様々な奮闘をしている姿と生活戦略も見えてきた。家事労働者たちの雇用者の理不尽な扱いに対する抵抗は、海外で家事労働者として働く人たちの抵抗様式と重なる部分がある。本研究は家事・ケアの住み込み労働者の国際移動の研究の知見をも参照しながら、大連での住み込み家事労働者が出稼ぎする要因や労働

実態、そして女性たちの生活戦略を明らかにしていく。

2. 中国における家政サービス業の誕生

2-1 中国の二元社会構造と出稼ぎ労働者

1990年代から2000年代初めにかけて、世界各国の企業が生産拠点を中国に移した。中国経済は「世界の工場」と呼ばれるほど急速に成長している。近年、中国が国際的にきわめて強い影響力をもつ国家として台頭したことは、2011年、GDP世界2位を達成したところからもわかる。中国における個人消費の伸び率は10年にわたって毎年2桁のパーセントを続けており、国内市場が拡大しつつある。2012年上半年に中国本土から海外旅行に出かけた人は約3900万人で、5年前のほぼ2倍である²。しかしその一方で、国内地域格差の問題が深刻なかたちで存在している。国内では農業の低生産性、農村の荒廃、農民の貧困という「三農問題」が深刻化している。つまり、現代中国には経済大国としてのイメージと社会的混沌や不安定性というイメージが交錯しているのである（大橋 2011）。

中国では1958年に制定された「戸籍登記条例」により、都市住民と農村住民を厳格に区別し、分離する政策がとられてきた。農村住民には農業戸籍、そして都市住民には非農業戸籍（都市戸籍）が与えられた。農村住民は長い間都市への移動を厳しく制限されていた（鎌田 2010）。農村と都市が異なる社会構造をもっている、いわゆる「二重社会構造」である。1950年代半ばから各地で実施された戸籍制度は、当初から人々の移動の自由に制約を設けていたわけではないが、都市における人口の急増とそれに伴う食糧、教育、医療等の提供が困難のため、1953年から中央政府は農民の都市への移動を制限する指示を出した（鎌田 2010）。

1978年に始まった、鄧小平副主席の国内改革および対外開放政策により、中国は従来の計画経済を脱して市場原理を大胆に採り入れていくようになる。1982年に人民公社制度と農業の集団化は崩壊しはじめ、個別農家に自主的権限を与える生産請負制と

² 「焦点：中国の海外旅行者急増、拡大続く国内消費市場を反映」2012年8月13日
<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE87C03Q20120813?sp=true>

するなど、個人経営を認めるようになった。それによる農村余剰労働力が顕在化してきた。また、富める条件の地域から先に富むべしという「先富論」が提唱され、対外開放した東の沿岸都市は経済活動が活性化してきた。しかし、内陸部が同様に発展したわけではない³。このように、農村と都市の間の地域格差、沿岸部と内陸部の間の地域格差は加速的に広がり、1990年代に出現した「民工潮」（出稼ぎ労働者のブーム）の台頭とつながったといえる（大橋 2011）。

中国で農村から都市へ出稼ぎ労働者を「農民工」という。「農民工」とは農村戸籍を持ち、都市に流出し、或いは地元で非農業に従事し、賃金を主な収入源とするものを指す（座間 2007）。改革開放以来、都市部は急速な経済成長を実現してきたのに伴って、低賃金の労働力への需要が急増し、都市における農村出稼ぎ労働者の就業機会が増えてきた（石 2003）。一方、冒頭で説明したように、農村における農業の集団化が崩壊したことにより、余剰労働力が顕在化している。また、労働力移動を制限した戸籍制度は徐々に緩和され、農村部と都市部の地域間格差の深刻化に伴い、1990年代に農業から非農業への産業間移動、農村から都市への地域間移動をする出稼ぎ労働者が大規模に発生した。中国国家統計局の報告によると、2011年の全国の出稼ぎ労働者総数は2億5278万人に達し、前年比で4.4%増加したことが明らかになった⁴。

石の研究では1991年大島の調査、1993年農業部の調査、1996年労働部の調査が取り上げられて、男性出稼ぎ労働者の規模と比べて、女性出稼ぎ労働者の割合がかなり低かった（石 2003）。しかし、農民工の増加に伴い、男女差は減りはじめた。1988年の男女比率が3.75:1で、1991年は3.22:1、1993年は2.57:1、1994年は2.29:1まで徐々に下がった（譚 1997）。2006年国家統計局の調査によると、農村出稼ぎ労働者の男女比率は1.78:1となっている⁵。楚によると、農村女性労働者移動の要因は経済

的な理由のほか、女性の婚姻状況も女性労働者移動の要因になる。婚姻状況は大きく二つのパターンに分けられて、一つ目は夫が出稼ぎをしているため、婚姻を維持するために、夫についていくパターン、二つ目は夫が出稼ぎをしていないが、夫と仲悪く、夫から離れるために出稼ぎをするパターンである（楚 2009）。また、姚と胡が引用しているYangとGuoによる1999年の研究も、農村女性労働者移動の要因を分析するなかで、婚姻関係、子ども、夫の出稼ぎなどの家族要因が女性の移動する決定的な原因であることに言及している（姚・胡 2008）。

女性家事労働の仕事は、主に知人、親戚の紹介によることが多い。そのような場合、基本的に雇用契約を交わしていないことから、休憩や休暇がない、労働時間が長い、賃金が取得できないなど、就労に際してリスクが高い（趙・徐・趙 2010）。また、女性出稼ぎ労働者は「女性」と「出稼ぎ労働者」という二重の周辺化された地位が付与されているので、同じ年齢と同じ職場でも都市出身の男性と比べて賃金が低いのが事実である⁶。女性出稼ぎ労働者は都市で非常に弱い立場に置かれているのである。

2-2 家政サービス需要の背景と現状

家事労働者とは、英語のdomestic worker^{bā o m ū}を翻訳した用語であり、中国語表現としては「保姆^{bǎo mǔ}」や「阿姨^{ā yí}」、「家政服務員^{jī ā zhèng fú wù yuán}」が一般的である（大橋 2011）。本稿では、中国の家事労働者を研究した大橋の表記に従って「家事労働者」、そして、家事労働者によって提供されるサービスに「家政サービス」という日本語を充てる。家政サービスとは、狭義には家庭内で行われるとされる再生産労働、すなわち炊事、掃除や洗濯、ケア（保育や介護）など報酬を得て代行するサービスと定義されている（大橋 2011）。

大橋が引用した社会学者の劉英の研究は、中国で家政サービスに対して需要が高まってきた背景を(1)家族形態の変化、主に核家族化による親族間の相互サポートの減少、(2)父権秩序が変化し、共働きが増加したことによる家事労働力の不足、(3)高齢化

³ 朝日新聞「トウ小平が仕掛けた史上類ない『実験』」
<http://www.asahi.com/international/history/chapter10/01.html>

⁴ 人民網日本語版「中国の出稼ぎ労働者総数が2億5千万人以上に」2012年7月12日
<http://j.people.com.cn/94476/7803300.html>

⁵ 中国国家統計局 第二次全国農業普查主要数据公報（第

五号）
http://www.stats.gov.cn/tjgb/nypcgb/qgnypcgb/t20080227_402464718.htm

⁶ 中国家庭文化網「女性農民工“融城”困境」
http://www.chinafc.org.cn/index.php?option=com_flexicontent&view=items&cid=61&id=1399

による扶養問題、(4) 一人っ子政策による子どもの教育の重視と、両親の共働きによる子育ての困難にあると整理している(大橋 2011)。家事労働者は、そのような家族のケアの空白をうめるべく、高齢者の介護、子育てと一般的な家事労働を担うことになるのである。農村女性出稼ぎ労働者は学歴が低く、特別な技術や技能を持たないため、都市で就職する時に非常に不利である。しかし、家事労働は学歴と高度な技能に対する要求水準が全般的に低く、家賃と物価の高い都市では住居の費用と飲食代が発生しない家事労働は、女性出稼ぎ労働者にとって魅力的に映る。

中国のみならず、世界中の多くの国や地域で家事労働者が働いており、家事や高齢者の介護、子育てなどの再生産労働を担っている。国際労働機関(ILO)が発表した報告によると、その数は2010年の時点で5260万人に達すると指摘されている⁷。女性の高学歴化に伴い、女性が労働力として社会進出するようになり、人的資本を有効活用する上でも、また高度経済成長を持続させる為にも、女性の労働力化は国の発展の鍵である。そして、その女性の労働力化が、家事・育児・介護の担い手不足の問題を生じさせるのである。アジアで中国系民族が強い地域に目を向けると、2004年末では、香港とシンガポールと台湾には50万人を越える外国人家事・介護労働者が滞在している(安里 2006)。これらの国や地域は自国の再生産労働担い手不足のため、他の国から労働者を調達し、再生産労働を実現する。一方、同じアジアでも中国では都市部と農村部の間で大きな所得格差と賃金格差が存在することと農村余剰労働力、都市部の失業者が多く存在するため、家事労働者はほとんど国内での供給である。

前述したように中国語では、家事労働者は「保姆^{bǎomǔ}」と呼ばれてきたが、2000年8月中央省庁の労働・社会保障部は保姆の正式名称を「家政服務員(家政サービス員)」と定め、資格の必要な90種類のひとつとして認定した⁸。そして、同年から、国家労働と社会

保障部が『家政サービス員国家職業基準』を設け、初級・中級・高級の3段階の等級に応じた家事労働者の資格検定を実施し始めた(中国家政服務業現状白皮書 2011)。更に、2010年9月1日に開かれた国務院常務会議(温家宝首相主催)では、家政業の発展支援策が策定され、家政業市場の育成、サービスの規範化、就業支援と職業技能訓練の強化、家事労働者の合法的権利の保護、財政・税制面での支援の強化という5つの方針を打ち出した⁹。中国政府は家政サービス業を就業促進を図るための重要な産業の一つとして位置づけると同時に、家政サービス業を規範化するために力を入れてきた。

労働内容から見れば、現在では、家政サービスは伝統的な家事労働だけではなく、都市部の人々の生活レベルの向上に伴い、子どもへの教育、来客の接待、家電製品の修理など多種多様な内容が期待されはじめている。このような要求に応えるには、より高い学歴、より専門的な知識や技能を持つ家政サービス員が必要になってくると考えられる。家政サービス業は第三次産業の中で重要な役割を担っており、需要が今後拡大するセクターであり、「朝日産業(中国語で“朝阳产业”)」と呼ばれている(趙・呉・王 2010)。

家事労働者は知人の紹介など自ら仕事を探すほか、家政サービス業者を通じて就業するのが一般の方法である。家政サービス業者の運営方式は主に「仲介制」と「員工制」である。「仲介制」は業者が家事労働者とサービス利用者とのあいだを仲介する形態をとっているのに対し、「員工制」は家事労働者を従業員として雇用し、サービス利用者のところに派遣するスタイルである。員工制の業者は毎月サービス利用者と家事労働者から管理費を徴収する一方、労働者と契約をするうえで、就業前の研修と労働者の社会保険加入が義務づけられている(王・藍 2006)。しかし、王、藍の調査では、これらの義務を履行していない業者が多くあった。また、家庭という特別な労働環境のため、事故や雇用者とトラブルがあっても表面化しにくい(上野 2011)。

⁷ 日本経済新聞「家事労働者 2010年で5260万人 ILOが初調査」2013年1月9日

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0905L_Z00C13A1FF1000/

⁸ 中国の社会福祉はどこへ向かうのか(1)―都市部の家政婦不足 2011年9月5日

<http://news.searchina.ne.jp/dispatch.cgi?y=2011&d=0905&>

[f=column_0905_006.shtml](#)

⁹ 中国の社会福祉はどこへ向かうのか(1)―都市部の家政婦不足 2011年9月5日

http://news.searchina.ne.jp/dispatch.cgi?y=2011&d=0905&f=column_0905_006.shtml

3. 調査地と調査の概要

3-1 大連の社会的ならびに経済的状況

本研究は大連市を研究のフィールドとしている。大連を選んだ理由について4点を挙げておきたい。

(1) 大連は中国の代表的な沿岸開発都市として経済が速いスピードで成長している。(2) 大連市は、全国より13年早く1987年に65歳以上が人口の7%以上を占める高齢化社会に突入し、全国平均より速いスピードで高齢化が進んでいる。(3) 農村出稼ぎ労働者の人数が多く、出稼ぎ家事労働者の候補者が多いものと推測できる。そしてこれらの点に加えて、

(4) 大連は地区クラスの都市として、その現状や特徴が中国の多くの地区と似ている為、大連地区の研究は中国多くの地域の状況を把握するには役立つと筆者は考えている。以下では、大連を調査地として選んだ理由を浮き上がらせるため、大連の地理的条件と経済的ならびに人口状況について紹介していく。

大連市は中国の遼寧省遼東半島の最南端にあり、中国東北部で最大の工業生産額をもつ大工業都市であるとともに、最大の港湾・航空貨物運送基地である。改革開放後、大連市は国務院より1984年に「沿海開放都市」、1985年には省・自治区並みの独立した権限を持つ「計画単列都市」（日本の政令指定都市に相当）として認可され、東北地方においていち早く市場経済化に取組んだ¹⁰。

2011年の大連市統計年鑑によると、全市のGDPの成長速度は中国全体の速度を遥かに上回っている。2011年中国全体のGDP成長率が9.2%に対し、2011年大連のGDP成長率が13.5%であり、中国全体の1.46倍であった。また、産業別GDPの推移をみると、大連の経済を支えているのは第二次産業と第三次産業であり、第三次産業の成長率が17.7%で、中国全体の第三次産業の成長率8.9%の約2倍であった(2011年大連市統計年鑑)。

次に大連の社会的状況を人口構成から概観する。2010年に行われた第5回大連市人口センサスによると、2010年11月1日の時点で、全市総人口は6,690,432人であった。0～14歳の人口は662,180人、総人口数の9.9%を占め、2000年と比べて6.1ポイント減になっている。15～59歳の人口は4,971,136人、総人口74.3%を占め、2000年と比べ

て2.9ポイント増になっている。60歳以上の人口は1,057,116人、総人口の15.8%を占め、2000年より3.2ポイント増となっている。また、65歳以上の人は716,350人で、総人口の10.7%を占め、2.0ポイント増になっている。同年の中国全体の人口センサスによると、中国全体の65歳以上の人は総人口の8.9%であり（大連市2010年第六次全国人口普查主要数据公报）、大連は中国平均レベルより速いスピードで高齢化が進展していることが分かる。

家族規模を見ると、第6回全国人口センサスでは2010年時点での中国全体の平均の家族成員の人数は3.1人に対し、大連の平均家族人数は2.6人であった。1980年から始まった「一人っ子政策」の実施により、家族の規模が小さくなり、高齢者夫婦のみや若い夫婦2人と子供1人の家族が増える一方である。三世代の伝統家族が少なくなり、「421」という人口構造（夫婦の2人が4人の高齢者と1人の子供を扶養する）というのが大連市の家族の現状である。

また、大連は沿岸部開放都市として、急速な経済成長のもとで、就業機会が増え、毎年、数多くの出稼ぎ労働者が流入している。大連市婦女連合会の報告によると、大連市に住む流動人口は120万人以上であり、大連市総人口の17.9%を占め、流動人口に占める16歳～40歳の割合は総流動人口の80%であった¹¹。第2章で述べたように、都市部の再生産労働における担い手不足は都市部の失業者と農村部の出稼ぎ労働者によって補填されている為、大連は豊富な家事労働者のプールがあると考えられ、出稼ぎ家事労働者の研究との適合性も高い。

3-2 調査の概要

第2章で出稼ぎ労働者移動の原因と背景について説明したが、ここでまとめておきたい。都市部では、核家族化・高齢化・夫婦共働きの増加により、高齢者のケア・子育て・家事労働という家庭内で行う再生産労働において、担い手不足の問題が生じた。これらを家事労働者の移動を誘因するプル要因とすれば、農村部での、「農業の集団化」が崩壊したことによる余剰労働力の顕在化、「二重社会構造」による農

¹⁰ 「大連概要」在大連出張駐在官事務所
<http://www.dalian.cn.emb-japan.go.jp/jp/dl.html>

¹¹ 国務院発展研究中心信息网「大連流動人口至少120万」
<http://edu.drcnet.com.cn/eDRCnet.common.web/DocSummary.aspx?version=EDU&docid=2819714&leafid=14115&chid=3634>

村部の収入の上げ止りをプッシュ要因と位置づけることができる。そして、そのプル要因とプッシュ要因を媒介するものとして、労働力移動を制限してきた戸籍制度の緩和、斡旋業者をも含む移動ネットワークをみていくことも必要であろう。本章では、このような地理的移動のダイナミクスのなかで、家事労働者として働いている女性たちの姿をインタビューから浮き彫りにしたい。つまり、彼女たちがどのような理由でどのように移動し、どのように働き、雇用者と渡り合っているのか、また、実家に残った家族の世話をどのようにおこなっているのか、などについて検討していく。

本研究の遂行にあたって、筆者は2011年8月から9月までの2ヶ月の間に、大連市で家事労働者として働いている11人の女性と雇用者2人を対象にインタビューを実施した。所要時間は、30分から3時間と対象者によって異なる。すべての聞き取り調査はメモとICレコーダーで記録した。インタビューを行う前に、筆者の調査目的を説明し、レコーダーの使用許可を取った。また、インタビューをスムーズに進める為に、経験者のプライバシーと心理状態を配慮しながら、話しやすい日時と場所を選び、経験者に不安や負担をかけないように十分な注意を払った。年齢の幅は、調査時点で、40歳～60歳で、彼女たちの出身地は内陸部の農村地域である。学歴はほとんどが小学校と中学校であり、高校は一人だけであった。家事労働者としての就労期間はもっとも短い女性で2年、一番長い女性は10年である。

インタビューでは、彼女たちが家事労働者として都市部の家庭で就労するに至る経緯、就労実態、故郷の家族とのやり取りなどを聞き取った。以下では、それらのデータを大きく二つにわけまとめていく。まず前半では、彼女たちの移動経路と家事労働者としての生活を通して、中国の市場経済、二重社会の犠牲者という弱者としての特徴を兼ね備えている点を明らかにする。しかし、彼女たちは単なる弱者としての存在に留まらない。労働者の売り手市場が形成されるなかで、彼女たちは雇用者を選び、主体的でしたたかな生活戦略を展開している。したがって、後半では、彼女たちの「主体」としての側面を描き出すことにした。また、「留守家族」という女性が労働移動することで起こる実家の介護・ケアの空白について考察していく。今回の調査は中国語で実施した為、本論文では日本語に翻訳し必要箇所を引用

している。インタビュー協力者の名前については、プライバシー保護の為に、すべて仮名としている。

4. インタビューからみた女性家事労働者

4-1 移動の経路について

南さん：「一人の知り合いもいない、私は冒険のようにきたんだ」

南さんは1969年に河南省のある村に生まれた。兄弟三人で、彼女には二人の弟がいる。小さい頃から家が貧しいため、兄弟三人とも小学校4、5年生の頃には学校をやめた。南さんの実家には工場があまりなく、人口も多いため、ひとり当たりの土地がととも少なく、農業による年間収入が2千元もなかった。2006年、37歳の南さんは家の経済状況を改善するために大連に出稼ぎに来た。2006年から2008年までの約3年間の間、南さんは住み込みの家事労働者として働いた。2009年の2月に知人の紹介で大連のある食堂で働くようになった。

私は二人の子供がいるのよ。上の子は13歳、下は10歳、まだ小学校1年生の時、私は大連にきた。大連にきて初めての日、何も知らなくて、泣きたい程困ったわ。でもしょうがないのよ。二人の子供が学校に通っていて、義理のお母さん（婆婆）も病気で毎日薬を飲んで、高い薬ではないけど、うちにとっては大きい負担だったから。夫の弟たちが家で農業をして、お母さんは今日は死ぬって言ったり、明日は死ぬって言ったり、夫が家で待機しなければならなかった。仕方がなく、私は冒険のように大連にきたんだ。（筆者：なぜほかの都市ではなく、大連を選んだのですか？）実は、私は大連がどこにあるかまったく知らなかったのよ。テレビで大連はすごく発展していて、就労機会がたくさんあるっていうニュースを見てから、400元を持って鈍行列車で大連に来たんだ。（南 2011年8月）

南さんは夫と二人の子供を残して一人で大連に出稼ぎにきた。2006年から2008年の頃まで、南さんは毎月500元を家に仕送りした。2009年に食堂で働くようになってから彼女の収入が上がったため、毎月1200元を家に仕送りしている。彼女は毎月家賃を払ってから残ったお金は全部実家に仕送りしている。

劉さん：「友人がたくさん儲けたから私も行きたい」

劉さんは58歳で遼寧省の農村出身である。文化大革命で小学校5年生の頃に中退した。実家にいたとき、果物の卸売で生計を維持していたが、2009年に配偶者が病気でなくなったため、一人では果物の卸売ができなくなった。同村の知り合いの紹介で大連にきて、知り合いと同じ団地で家事労働者として働いている。

夫がなくなったあと、私は果物の販売ができなくなった。一人じゃ運んだり、車を運転したりするとかできないから。農村の者なので、今貯金しないと、老後は保障がないよね。一人の息子がいるけど、河北省で働いて、彼の生活も余裕はないから、老後は息子に頼りたくないのよ。私は両親もいなくて、一人じゃ寂しいし。玲ちゃんは私の近所だよ。彼女は大連で働いて一年3万円も儲けたって。玲ちゃんにお願いして、大連まで連れてきてもらった。玲ちゃんはこの団地はお金持ちばかりで、いい人を紹介してあげるよって言って、今の仕事を紹介してくれた。（劉 2011年8月）

劉さんは南さんと違って、知り合いの紹介で大連に来たので、仕事を見つけやすく、あまり困ったことはなかった。配偶者の死亡は劉さんが果物の卸売をやめた一番重要な原因であるが、大連に来て、家事労働に従事したのはすでに同じ仕事をしている友人の影響であったといえる。

于さん：「仲介業者の募集広告を見てやってきた」

于さんは45歳で黒龍江省の農村出身の女性である。中学校卒業である。2001年から出稼ぎを始めて、もう10年になった。于さんは2001年から2004年までハルピンで家事労働者として働き、夫が大連に出稼ぎにきている、2004年の秋頃に大連にきた。

初めて出稼ぎをした時、娘は小学校一年生だった。新聞の募集広告を見て、一人でハルピンに向かった。仲介業者が仕事を紹介してくれたの

で、100元を仲介業者に払った。実は、農村には土地もあるし、生活にはあまり困らないけど、やはり都市の賃金が高いから、私たちのような田舎者にとって魅力的なの。私一人の収入はだいたい農村で働く2倍にあたるのよ。将来娘を大連の大学に進学させたい、夫も大連にいるからね。（于 2011年9月）

南さん、劉さん、于さん三人の経験は、農村出稼ぎ労働者の移動経路は個人の移動、仲介業者の紹介、知り合いの紹介など様々であるが、彼女たちに共通しているのは経済的要因が出稼ぎの動機になっている点である。南さんは実家の経済状況を改善するために、劉さんは老後の貯金のために、于さんは都市と農村との地域格差のもとで、農村の生活に満足せず、都市に移動してきた。そして、周囲の情報や他人の経験は彼女たちに対して大きな影響を与えている。都市部で働き貯めたお金を、実家の日常生活や子供の教育、高齢者の医療費用として送金し、実家の生活の改善に役立てていた。

4-2 家事労働者としての生活

本節ではインタビューを受けた11人の女性家事労働者のうち、趙さん、王さん、周さん三人の話を通じて女性家事労働者たちは具体的にどんな仕事をしているのかみていこう。

趙さん：「気をつけて仕事をしている」

趙さんは40歳、遼寧省の農村出身で、高校を卒業している。2005年独自で大連に来て、もう7年になった。彼女は初めて来た時からずっと0歳から3歳までの育児の仕事をしている。普通の家事労働と比べて、育児の仕事は専門的な知識が必要とされる。趙さんは大連に来て初めての時、婦女連合会で二週間の研修を受けた。

私の仕事は赤ちゃんの健康管理と生活上の世話をすること。例えば、授乳、着服、おむつの交換、体温の測定、体操、お風呂など、これらは全部基本的な仕事。婦連（婦女連合会）で習ったの。赤ちゃんは昼夜の区別がつかず、小刻みに寝起きするから、私はほとんど長時間の睡眠ができません。夜二回ぐらい起きて、赤ちゃん

んのおむつをチェック、おしっこがあったらすぐ交換しなければならぬから。そして、赤ちゃんは何か不快や病気があったら夜泣きの時もあるから、その時はつらいね。（中略）自分の子供ではないから、倍以上気をつけて仕事をするの。すこしでもミスがあったらすぐ怒られて、あなたはわざとそうしているって言われる。今の雇用者はまして、以前働いたところは特にひどかったね。なんというか、神経質だね。（趙 2011 年 8 月）

趙さんは子供の世話が好きなので、育児は楽しいものの、夜に長時間の睡眠が出来ないこととミスがあったときに雇用者に怒られるのがつらい部分であると語る。中国のほとんどの家庭は一人っ子のため、親と祖父母たちはすべての愛を子供一人に傾けて、子供を宝物のようにしている。家事労働者のささいな不注意であっても雇用者に怒られ、「わざとそうしているのだ」と責任を問われるので、趙さんはいつも慎重に仕事をしている。

王さん：「私の努力で、おじいさんは何キロも太ってきた。」

王さんは 60 歳、安徽省の農村出身で、小学校卒業である。2004 年、配偶者が交通事故で寝たきりとなった。息子が一人いるが、正式な仕事を持っていない。王さんは実家で農業をしたが、収入が少ないので、2005 年に知り合いの紹介で大連にやってきた。今は、高齢者介護の仕事をしている。

高齢者介護の仕事は給料がとても高い。息子が結婚する為に貯金したいね。（中略）高齢者介護の仕事は確かに大変。うちのおじいさんは半身不随で排便は自分ではできない。こんな仕事は若い人ならいやでしょ。朝 4 時に起きて、おじいさんに朝ご飯を用意する。おじいさんはだいたい 5 時に目が覚めるから、私はおじいさんを抱えて車椅子に移し、外で散歩をしてもらう。帰ってから手と顔を洗ってあげる。食事を食べさせ、食べ終われば、ラジオやテレビをつけたまま休憩させる。その間、私はおじいさんの服を洗う。よく便やおしっこがつくので、まず手で洗ってから洗濯機に入れる。11 時から昼食を

用意する。午後は一時間の散歩と一時間のマッサージ。夕食後は体を拭いてあげる。このように私が頑張って、おじいさんは何キロも太ってきた。（中略）こんな仕事は好まれないので、給料が高い。それでもやる人がどんどん減っていくね。疲れるし汚い仕事ばかりだから。私はもう 60 歳になるから、来年はやめようと思う。（中略）おじいさんとおばあさんは優しくしてくれるけど、お嫁さんはね、いつもあれこれ指図するのよ。ちゃんと体を拭いてあげてないとか、服を丁寧に洗ってないとか。この前、お嫁さんが私をやめさせようとしたが、おじいさんがやめたらだめよ、いいお婆さん（家事労働者に対する呼び方）だよって言ってくれた。（王 2011 年 8 月）

周さん：「貴重品に触れず、口数を少なくする。これは私のこつ」

周さんは 56 歳で、黒龍江省の農村出身である。学歴は小学校卒業である。2008 年大連に来て、4 年になった。周さんの娘さんは大連で仕事をし、大連で家をローンで買ったため、周さんは娘と一緒にローンを返すために大連に来たのだ。

掃除する時はね、貴重品があったら絶対触らないでよ、指紋が残るから。家にはだれもいないから、なくなったらあなたが盗まなくても、あなたの責任にされるよ。こんなことが頻繁に起こっている。理不尽な雇用者が多いのよ。もう一つは、あまりしゃべらないほうがいい。彼ら夫婦たちが話をしている時、私は一言もしゃべらないよ。向こうから聞かれない限り、何も言わない。私は他人だから、彼らの話に加わると嫌われるよ。昼間はいいけど、家に誰もいなくて、自由だけど、夜、彼らは帰ってくるので、私は早く仕事を終えて、自分の部屋に入る。ドアを閉めて、彼らの話は、私とは関係ないよ。（周 2011 年 8 月）

以上のような三人の経験から、家事労働者は雇用者の家庭で働き、雇用者の指示や管理、監督下にあることが分かってきた。また、家事労働者に対する扱いは雇用者によって違う。インタビューでは、河

南省からきた南さんは雇用者家族の食事とは別に食事を取るようになっていく。黒龍江省からきた周さんは長ネギの根元を食べさせられた経験を語ってくれた。雇用者にとって、自分の家庭は安らぎと休憩のための私的な領域だが、家事労働者にとってそれは職場であり、ストレスの源であり、生きていく闘いの場所である（上野 2011）。彼女たちは基本的に長時間労働であり、私的な場所が極めて制限されている。

4-3 酷い扱いに対する奮闘

このように、家事労働者は雇用者の家庭で、厳しい扱いを受けやすいことをみてきた。周さんの事例にも示されているように、彼女たちは理不尽な雇用者から自らを守るために、様々なテクニックを使っている。本節では、家事労働者へのインタビューと雇用者へのインタビューから、彼女たちの抵抗の諸相をみていこう。

高さん：「どうして私の部屋が一番寒いのか」

高さんは47歳で、内モンゴル自治区の農村出身である。中学校卒業である。彼女は2004年2月に夫と一緒に大連にきた。それまでは家の近くにある料理店で店員をしていた。2002年の頃、高さんの夫は親戚と一緒に建築用の石を販売していたが、その親戚に5万元以上のお金を騙されて持っていかれた。5万元は農村出身の高さん夫婦にとって、大きな金額であり、しかもその中の3万元近くは友人や親戚からの借金である。借金返済に苦しんだ挙句、高さん夫婦は大連に仕事がたくさんあり、給料が高いとの話を村の人から聞いて出稼ぎにきた。今、高さんの夫は建築会社で大工として働いている、高さんは家事労働者として働いている。彼女は2012年の2月に今の雇用者家庭に移って、まだ半年にも満たない。来た当初、大連の気温は零下5度から10度であり、とても寒い時期だった。雇用者の家には四つの部屋があるが、北向きで一番寒い部屋が黄さんの部屋であった。

彼らの家はとっても大きくて、南向きの部屋が二つ、北向きの部屋が二つある。私が住んでいた部屋はもともと物置として利用されており、普段使わない物や要らない服がたくさん積んで

いる。その部屋は湯暖房が設置されているが、とても小さい湯暖房で、冬は耐えられないほど寒い。夜寝るときは、厚い布団を被っていても頭や顔が寒くて、頭を布団の中に埋めて寝る。その部屋で二週間ぐらい住んだが、寒さに耐えられず、奥さんに部屋を変えたいと申し出た。私は別に南向きの大きい部屋で住みたいわけではなく、隣のもう一つの北向きの部屋でもいいと言った。その部屋は少なくとも人が住む普通の部屋で、湯暖房の効きが良かったからである。ところが、奥さんからあなたは保姆なのに、部屋を選ぶ権利があるのと言われた。それは今まで自分が経験したことのない差別的口調だった。私は腹が立って、夜布団を被らなくてわざと風邪をひくようにした。翌朝は39度の熱が出て、休みを取って病院にいった。それで咳きも出たので、約二週間何の仕事もできなかった。最後は旦那さんが部屋を変えてあげると言ってくれた。でも、こんな家で仕事を長く続けたくはないので、新しい雇用者が見つかったら今の仕事をやめたい。（高 2011年8月）

高さんは家事労働者として雇用者の家に住み込んでいるが、雇用者は自分の家族のメンバーだと認識していない。さらに雇用者は物置として利用される一番寒い部屋を高さんにあてがった。そして、高さんが部屋を変えたいと言ったとき、高さんは保姆にすぎず、部屋を選ぶ権利がないとして、その要請を却下した。「保姆」という言葉は家事労働者に対する一般的な呼び方であるが、家事労働者にとって、「保姆」は「下人」のイメージが強く、当事者たちには好まれない呼び方である。つまり、高さんの雇用者は、高さんがする仕事に対して差別意識をもち、高さんを自分たちとは異なる劣位な存在とみなしているのである。高さんは、わざと風邪を引いて仕事をサボタージュすることで、雇用者に自分の仕事の重要性を認識させ、暖房の効きが良い部屋を獲得したのである。

苗さん：「娘と仲良くするために努力した」

苗さんは46歳で吉林省出身である。2010年に初めて大連にきた。配偶者は実家の工場で働いているが、夫婦で喧嘩が絶えず、仲が良くない。苗さんは

今年の7月まで、シングルマザーとその母親の15歳の娘を住み込みで世話していた。苗さんによると、その雇用者は公務員であり、中学校2年生の娘は有名な高校に入るために必死に勉強している。雇用者の家は狭く、雇用者と娘二人しかいないため、仕事の量はそれほど多くない。しかし、苗さんによると、この家庭の仕事は実は簡単ではない。

雇用者はとても優しく、人柄もよかった。いつも、おねえさん、このリンゴ食べてねと言ってくれた。でも、つき合いにくいのは彼女の娘だった。一人っ子なので、すこしでも不満があったらすぐ怒りっぽくなる。特に私のことが気に入らなく、よく母親の前で私の悪口を言った。おばさんはトイレを使ってから流さないとか、お母さんのお金を使ってわざと高い食材を買うとか。これらは全部嘘だった。これらは、小さなことだけど、頻繁に言われると、仕事がやりにくくなる。だから、私は八方手を尽くし雇用者の娘と仲良くしようと努力した。例えば、誕生日の時に、彼女のほしかったバッグを買ってあげたとか、彼女の好きな料理をたくさん作ってあげたとか、面白い話をして彼女を喜ばせるとかである。そのうち、彼女もだんだんなついてくれた。でも、日常的な会話をするとき、私はやはり話し方にいろいろ気をつけなければならなかった。そうしないと、彼女が喜ばないような話になるとすぐ叱られてしまい、母親の前でまた私の悪口をたくさん言う。いつも緊張していた。(苗 2011年9月)

苗さんは理不尽な雇用者の娘に悪口を言われても、仕事を守るために雇用者の娘とけんかしなかった。そして、雇用者の娘と仲良くするために、色々な方法を使って、雇用者の娘の歓心を買おうとしていた。家事労働者にとって、雇用者家族全員がボスで、労働者は自分一人しかいない。普通の会社や工場のような職場であれば労働者は複数名がおり、ボスに不満があったら自分と仲良い労働者と相談したり愚痴を言ったりするのが普通のだが、家事労働者は話相手がいないため、年下の家族メンバーに苛められても、怒りを堪えて我慢しなければならない。ボス複数名 VS 労働者1名の戦いの中で、家事労働者は構造

的に弱い立場に置かれている。表面的には苗さんは雇用者の娘の言動を抵抗を示したわけではないだろうが、雇用者の娘の歓心を買うのが苗さんにとって自分を守る精一杯の戦略であった。

李さん：「雇用者がいない時は自由だ」

李さんは58歳で、吉林省の農村出身である。彼女は大連にくる前に、実家の近くにある小さな工場で働いた。1998年にリストラに遭い、下崗女工(リストラ女工)となった。2000年4月に、李さんは姉の紹介で大連に来た。2000年4月から2001年の10月の約1年半の間は、商店街で服を売る仕事をしたが、あまり儲からなかったのも、次に姉の紹介で家事労働者の仕事を始めた。

李さんは今の雇用者の家庭で3年間働いている。夫婦二人と9歳の子供一人の世話をしている。毎朝6時から仕事が始まる。朝ご飯の用意と子供を学校まで送る。学校から帰ってからは雇用者家族の家事全般をこなす。この家は160平方メートルもある大きい家なので、掃除は楽ではない。でも、李さんは上手に休みをとって、ゆっくり仕事をしている。

基本的には朝5時半に起きて、6時に朝ご飯を用意する。それから、7時に子供を学校まで送って行って、帰ったらだいたい8時になる。夫婦二人は8時に家を出て、いつも夜の7時ごろに帰宅する。だから、8時をすぎたら、家には私一人しかなくて、とても自由。仕事がたくさんあるけど、自分のペースでゆっくりやればいい。奥さんは床に厳しいから、床を必ずピカピカにすることにしている。ベッドメイクと洗濯は大事だね。奥さんが仕事から帰って、外から洗濯物をいっぱい干しているのを見て、ドアを開けたら床もピカピカして、ベッドもホテルみたいで、気持ちがいいでしょ。あとは、シャワー室、キッチンとお手洗いをピカピカにすると、だいたい満足してくれる。夕方からまた忙しくなって、夜10時まで続くが、私はゆっくりやっているから、さほど疲れない。(李 2011年9月)

李さんは三人家族の世話をすることと大きな家の家事をする仕事で、長時間働いているが、雇用者が

いない間に上手に休みと仕事のバランスを取り、重点的に家事をしている。また、李さんは去年、自ら周りの家事労働者と情報交換をし、自分の給料は周りの家事労働者の給料より 500 元低いことを知り、自ら雇用者に給料アップを交渉した。

私は 2000 元だったけど、みんなは 2500 元だよ。奥さんに 2500 元ほしって言ったら、2300 元にしてあげるって言われた。私はこの 2 年間ずっと 2000 元で、みんなはだいぶ前から 2500 なので、2500 元してくれないと、やめるって言ったら 2500 元してくれた。(李 2011 年 9 月)

李さんは給料アップを交渉する時、周りの情報と「やめる」という脅しのテクニックを使った。家事労働者が突然辞めると雇用者は困る。やる仕事がある、つまりニーズがあるから家事労働者を雇用しているからである。仕事で忙しい雇用者たちは気に入る家事労働者を探すのに多くの時間をかけ、仲介業者の紹介で探す場合は、手数料も払わなければならないのである。そして、家事労働者が突然辞めると、家事を自分たちで調整しなければならず、子供がいる場合は子供の送迎も出来なくなり、日々の生活が機能停止になる可能性もある。

本研究ではインタビューで家事労働者の声を聞くだけではなく、雇用者二人の声も聞いた。以下は雇用者の陳さんの話である。

僕は今まで、5、6 人ぐらいの家事労働者を雇ったことがある。半分以上の人が 1 年すぎたら給料アップを要求したり、仕事に対する不満を言ったりした。そのような要求を実現させようとする。そうしないと、すぐやめると言ってくる。やめられるのが一番打撃になる。やめようとしていない人もいたが、なかには家事をしっかりしてくれないひともいるよね。僕ら家族は毎朝全員が家を出るのだけれど、午前 10 時ごろ、忘れ物があったので突然家に帰った。そのとき、おばさんがソファで横になって、テレビを見ていたんだ。また、長時間の休みを取って、一ヶ月ぐらい、実家に帰った家事労働者もいたよ。そのときもつらかった。(陳 2011 年 9 月)

家事労働者は賃上げの要求をする時や、仕事への不満を言う時に、積極的に近くの家事労働者と情報を交換し、自ら雇用者と交渉をする。給料をあげてくれないと、仕事をやめたり、長時間の休みを取ったり、丁寧に仕事をしなかったりして、就労条件の向上を獲得すべく、自分が雇用者家庭にとって不可欠であるという役割を積極的に利用する。つまり、彼女たちは単に受動的な被害者であるというわけではなく、雇用者と駆け引きする積極的なアクターでもある(上野 2011)。

4-4 労働力不足による家事労働者の売手市場

前節では家事労働者李さんの話を紹介した。李さんは給料アップを交渉した時、「辞める」という脅しのテクニックを使った。また、雇用者陳さんの話によると、彼は 5、6 人ぐらいの家事労働者を雇ったことがあるが、半分以上の人が給料アップを要求したり、仕事に対する不満を述べ立てたという。そして、要求が実現されないと仕事を辞めると雇用者に迫るのである。家事労働者たちが今の仕事を辞めたら、給料がなくなり、自分の生活と実家の家族への仕送りはどうなるのかと一般的に思われるのかもしれない。ところが筆者の 11 人の家事労働者へのインタビューからは、8 人が「仕事探しは難しくない」と言い切っていた。つまり、家事労働者たちは今の仕事を失っても次の仕事のことを心配する必要はなく、自分の満足する仕事を見つけるために、働き先を変えるということが明らかになった。

大連市家庭サービス業協会が行った調査によると、大連では家事労働者が 2~4 万人が不足している¹²。特にゴールデンウィークや春節になると、多くの家事労働者は故郷に帰ってしまい、普段、家事労働者に任している仕事を雇用者が自分でするしかない。代替できなければ、家事担い手が不在になり、ケアが空白になるのである。いわゆる、「保姆荒」(家事労働者が足りない)問題である。大連法制新聞 2012 年 10 月 9 日の記事を紹介しよう。2012 年の 10 月、中国では中秋節と国慶節の二つの節があり、8 日間の長い休みがあった。新聞記事によると大連市

¹² 東北新聞網 「保姆荒継続 大連最貴保姆月薪 4000 元」
2011 年 2 月 25 日
<http://liaoning.nen.com.cn/liaoning/467/3730967.shtml>

沙河口区の李さんと娘は旅行を計画していたが、李さんは家事労働者から休みを利用して帰省したいと言われた。普段、家事労働者と良好な関係を維持している李さんは反対することができなかった。「日結保姆」（当日に給料を清算する家事労働者）を探そうとしたが、こちらのほうも売り手市場であり、李さんは家事や親の世話を任せる家事労働者を見つけることができなかった。結局、李さんは旅行を取りやめた¹³。

李さんのような経験がある雇用者は決して少数ではない。ゴールデンウィークや春節になると、近所や親戚の家の家事労働者を借りたり、「日結保姆」を雇ってしのぐことがパターン化されている。以下は2011年9月に筆者が行ったインタビューでの雇用者、玉さんの話である。

長い休みの前になると心配が募る。家で働いているおばさんが帰省するからだ。私たちも長い休みが普段あるわけではない。長期の休暇には、家族で旅行したり、実家に帰ったりしたい。でも、それはおばさんも同じである。おばさんが帰省したら、誰が家の猫と金魚の世話をするのか。だから、私たちが旅行できないのだ。去年の春節、私たちは両親の家に行かなくてはならなかった。仕方がなく、隣の家のおばさんを借りた。毎日1時間だけ来てもらって、金魚の餌やりと電気やガス、水道の調子をみてもらった。

（筆者：こういうやり方は普通ですか？）よくあります。だから、この団地でおばさんに会ったらお互いに挨拶する。誰の家のおばさんなのかも知っている。（玉 2011年9月）

春節は中国の節の中で一番重要な節なので、家事労働者たちも春節になると、ほとんどが実家に戻る。玉さんの話によると、家事労働者のなかには帰省をきっかけにして、その後、戻ってこない人もいうのである。

おばさんが実家に帰ったら、もし実家に何かあったら戻ってこない可能性もある。例えば、家族が戻ってほしくないとか、両親が病気になっ

たとか。彼女たちは外で働くけど、心は実家にあるからね。誰もが家族と家があるね。（玉 2011年9月）

家事労働者が実家に帰っても、年が明けたらまた戻ってくるように、玉さんはいろいろな方法を使った。玉さんの勤め先は年末になると、魚やお菓子を従業員に分けてくれる。玉さんはその魚を冷凍し、また家事労働者の子供に服を買って、家事労働者の家族へのお土産を準備する。また、よく使うのが「紅包」（赤色の封筒の中にお金が入っているもの）である。中に入れるお金は、二百元が標準であったが、近年、給料や物価が上がるとともに、「紅包」も三百元、五百元に上がってきた。経済的に余裕がある雇用者はもっと大きな金額を渡す。一ヶ月分の給料を「紅包」として家事労働者に渡す雇用者もあり、その場合には、2000元以上が必要である¹⁴。そして、玉さんの話によると、家事労働者たちの間では、雇用者からもらった物やお金を比べあい、雇用者を評価する。したがって、雇用者は近所の家事労働者を雇っている家と相談し、どのような物を家事労働者に渡すか、「紅包」をいくらにするのかの相場を決めることが肝心になる。

このように、「保姆荒」の状況は大連だけでなく、中国の多くの都市にも共通して認められることである。特に、北京や、上海、深圳などの大都市では、「保姆荒」の状況はもっと厳しい。近年、家事労働者の給料が大学新卒者より高くなり、ある都市では、家事労働者の給料は公務員の給料に近い¹⁵。家事労働者の賃金は中国の都市部の給与と比べても遜色ない。しかし、家事労働者の給料が上がってきても、家事労働者不足という状況が相変わらず存在する。

中国労働学会副会長蘇海南の話によると、近年、中央が農村発展と農民増収の政策を出し続けており、農村で工業園区を作り、農村部は大きく発展している。農村部の余剰労働力を地元で吸収できるシステムが作られている地域では、出稼ぎをする人自体が減っている。また、中国社会科学院人口労働経済研

¹³ 大連法制新聞 「節日遭遇保姆荒 放弃旅游 “家里蹲”」 2012年10月9日

¹⁴ 半島晨报「年底保姆荒 雇主发红包留人」2011年12月30日

¹⁵ 中国广播網「保姆荒愈演愈烈养老陷危机 完善社会保障体系是关键」2011年9月14日
http://finance.cnr.cn/jjpl/201109/t20110914_508502438.shtml

研究所副所長張車偉の話によると、低い給料の仕事をして家事労働をしたくない若い農民工が増えてきた。家事労働者の労働力不足が明らかになってきているのである¹⁶。このように、中国の家政サービス市場は労働力不足により、売手市場となっている。

このような売手市場の中で、都市部に移動してきた女性の雇用者たちは必ずしも「強者」や「ケアの略奪者」というだけでなく、むしろ、家事労働者に「辞める」という脅しテクニックを使われたり、家事労働者に高い給料と「紅包」を払ったり、帰省をきっかけにして戻ってこない家事労働者に困惑し、弱い立場に置かれているという面もみえてくるのである。

4-5 実家の介護・ケアの空白（留守問題）について

家事労働者たちは都市部の家庭で働き、少なくとも年に1回、多いひとでは年に3、4回程度実家に帰省していた。彼女たちは、第1節と第2節で紹介したように、自分の家を離れて、都市部に出稼ぎをしている女性たちである。そして女性は家族の中で、子供の世話や高齢者の介護などの特別な役割を担うことが期待されているため、彼女たちが都市部に出稼ぎに行くと、実家において介護やケアの空白が生じる。つまり、ケア・ドレインの問題である。これは、「留守児童」「留守高齢者」の現象として、広く農村に存在している。中国政府は第11期全国人民代表大会第5次会议で子どもと両親が離れている期間が半年もしくはそれ以上になると、親子関係が疎遠になると指摘した¹⁷。また、両親の長期的な不在は子どもの心理的成長と健康にマイナスの影響を及ぼすことを指摘する研究者も多くいる（段・楊 2008、李・臧 2010）。

第1節で紹介した河南省からきた南さんは、13歳と10歳の子供がふたりいる。南さんの話によると、今は、彼女と夫はふたりとも出稼ぎをし、子供と義

理の母親が実家で一緒に生活している。南さんは節約するために、年に1回しか実家に帰らない。旧正月休みにやっと実家に帰って、子供たちの顔をみるものの、南さんは学校や成績、生活面についてすべてを把握することができない。上の子は母親の気持ちをそれとなく理解しているのだが、下の子は「お母さんが私のことを愛していない、私にはお母さんがいない」と言い張り、母親と話をすることを拒否していた。一週間から二週間の休暇が終わり、南さんと夫が都市に戻る時期になった。両親の愛をまだ十分に実感できない子供たちにとって最も辛いときである。上の娘は、「お母さん、またいつ帰るの？夏休みの時に帰ってくれないの？よく電話をしてね！」と何回も両親に確認する。出稼ぎをしている南さんは子供の成長を観察できず、また子供たちにも母親のイメージがあまりなく、祖母と一緒に苦労する思い出ばかりである。

全国婦連調査によると、2008年の時点では、南さんの子供のような「留守児童」は全国で5800万人であり、そのうち14歳以下の子供は4000万人もいる。留守児童の数は全国の農村児童の28.3%占め、四人の児童の中に一人の留守児童という状況が明らかになった¹⁸。農村部に残された留守児童たちは中国の「二重社会構造」、特に戸籍の制限により、親について都市部に引っ越しても都市部出身の子供より倍以上の授業料を支払わなければならない。また高校入試や大学入試の時は戸籍所在地で受験など、様々な制約があるため、出稼ぎに出る親たちは子供を農村部に残している。留守児童たちは長期間にわたって両親と離れているので、情愛を受けることに乏しく、したがって精神的な平衡が少なからず失われている場合がある。そして、両親との情愛に充ちた交流が長期にわたって保てず孤独感に苛まれており、内向的でまた社会に対して反抗的になりがちである（張 2006）。教育面においても、都市部の学校と比べて、農村部の学校の教育レベルが低いことと、孫を世話する祖父母の世代が学校教育を受けていないなど親族の教育レベルが全体的に低いことから、留守児童たちの教育において大きな問題があること

¹⁶ 金融界「家政業陷入“有价无市”怪圈 保姆荒凸顯三矛盾」2011年12月22日

<http://finance.jrj.com.cn/consumer/2011/12/22092311891619.shtml>

¹⁷ 人民中国インターネット版「全人代代表が「留守児童」「空巢老人」問題に関心」2012年3月13日

http://www.peoplechina.com.cn/zhuanli/2012-03/13/content_439474.htm

¹⁸ 中国政府網「全国婦連：全国農村留守児童数量約5800万人」2009年5月27日

http://www.gov.cn/jrzq/2009-05/27/content_1325494.htm

を指摘した研究がある（張 2006、譚 2011）。

問題は子どもだけではない。農村部から都市部へ
の出稼ぎ、特に女性の出稼ぎにより、高齢の親の介
護においても大きな問題が生じている。子どもが高
齢の親を扶養するという中国の伝統的な家族習慣が
少しずつ崩壊している。賃金労働で働ける世代が都
市部に出稼ぎをし、定期的に実家に送金することによ
って、実家の生活は物質面では改善するのだが、
「留守高齢者」の面倒を見てくれる人がいないのが
悩みである。高齢者は農作業で生計を維持するほか、
場合によっては孫の世話もしなければならず、厳し
い生活を強いられている¹⁹。

黒龍江省から来た周さんのケースをみていこう。
母親はすでに死亡しているが、80代の父親を農村に
残しており、父親は認知症を患っている。周さんの
二人の弟は農村で農業をしている。お父さんは自分
で食事を摂ることができるが、人の顔を覚えること
ができない。

実は、私が実家でお父さんの世話をしたらよか
ったけど、娘一人では大連のマンスションのロー
ンを返すことができないから、私も来たんだ。
どちらも大事だよ。まあ、二人の弟が手伝っ
てくれるから、そんなに心配していない。その
代わりに、弟二人にはお金を送っている。でも、
お父さんはほんとにかわいそう。私は帰省した
ときに、1時間もしゃべったが、あなたは誰っ
てきてきた。体は臭くて、服もぼろぼろだ。
やっぱり私が悪いんだ。（周 2011年8月）

若者の都市部に出稼ぎの増加と呼応して、家族が
高齢者を世話する伝統も弱まり、農村の高齢者扶養
問題が深刻化している。杜鵬の調査によると、若者
が都市部で仕事に忙しいため、高齢者との交流が減
少する傾向があり、電話を使って高齢者と交流する
のが主な方法になってしまった（賀・葉 2012）。
現在、農村の留守高齢者は4千万人に達し、うち65
歳以上の高齢者が半分を占めている²⁰。都市部の高

齢者に比べると、農村は社会保障や生活を支える経
済基盤が脆弱で、子どもがそばにいないことから精
神的に頼るところもない。数多くの高齢者は畑仕事
の重荷を背負いながら、苦しい老後を送っている
（賀・葉 2012）。

第4章第2節で紹介した錦州出身の趙さんは初め
て大連に来た時は、33歳だった。娘は8歳で小学校
2年生だった。そのときの趙さんの両親はまだ57と
58歳で、農業をやりながら趙さんの娘を世話してい
た。しかし、今の趙さんの両親は60代後半に入り、
孫を世話するのが体力的にも精神的にも疲れている
ことが趙さんの話から分かる。

その時は、娘は隣の村の小学校に通っていた。
親は温室野菜をやっていた。毎日通学の時間にな
ったらうちのお父さんは必ず娘を送り迎えに行
った。でも、小学校の時はまだ大丈夫だったが、一
昨年頃から娘は中学校に入って、学校は家から遠
く離れて、送迎は難しくなった。中国の中学校は
終了時間が遅いから、特に冬になると道がとて
も暗く、お父さんは心配して自転車で1時間走
って迎えにいった。雪の日はとくに大変だね。で
も、お父さんは「あんたの娘なんで、何かあつ
たら俺ら死んでも返せない」と言っていた。しか
も、娘は中学生になってから勉強がすごく忙しく
なって、授業の内容も難しくなった。私のお母さん
は学校に通ったことない、お父さんは小学校レ
ベルなので、孫に何も教えられない。娘の成績
もどんどん下がっていった。このことで、私のお
父さんはものすごく悩んでいた。このままじゃだ
めだよ。去年、娘を市内にある寄宿学校に転校さ
せた。一ヶ月に一回程度家に帰ることができる。
この学校の費用は地元の学校の費用の二倍もする
が、親は農業をやるだけでもういっぱいいいば
い、孫を世話するとか教育するとか、そんな余裕
がないのだ。（趙 2011年8月）

趙さんの両親は孫を世話することに力を入れて
きた。しかし、加齢により農業で生計を立てなが
ら孫

¹⁹ 求是理論網「対農村留守老人养老問題的探討」2011年
6月17日

http://www.qstheory.cn/jj/jsshzyxnc/201106/t20110617_87844.htm

²⁰ 中国共産党新聞網「温総理為何重視解決留守老人和兒童

農村大問題」2012年1月5日

<http://cpc.people.com.cn/GB/64093/64103/16797809.html>

を世話することが趙さんの両親にとって大きな負担になった。特に、趙さんの父親は責任感が強く、孫の安全を守ることや勉強に力を尽くしたいのだが、自分の能力が足りないことに悩み、精神的にも負担が増していた。

筆者が趙さんの両親の現在の生活状況について聞いたところ、意外な返答が返ってきた。孫が市内の寄宿学校に通って、趙さんの両親はやっと安心し、老後を送ることができると想像していたのだが、実は、趙さんの両親は孫と離れてから寂しさが倍増してきた。趙さんの実家は農村であり、地域のイベントや娯楽施設も少なく、趙さんの両親は農業をする以外、ほかにほとんどすることがない。特に、趙さんの母親は腰痛のため、農業をすることができず、家で1時間ほど軽い家事をしたら、1時間横になって休憩する状態である。そして、趙さんのお父さんが農業をしている間、本が読めず、テレビも好きではない趙さんのお母さんは寂しさを感じている。近くに子供たちがいない趙さんの両親は、病気と生活が単調なため、孤独感を募らせているのである。

お母さんは腰痛のため、働くことは言うまでもなく、誰かの家に行って長時間しゃべることもしできない、ずっと座ったままだから。最近、お父さんは安い歌のCDを買ってあげて聞かせた。そうしないと、誰もいないときは音もなく、お母さんは寂しい。(趙 2011年9月)

趙さんの両親のような高齢者は中国の農村では少なくない。都市部の高齢者と違い、農村部の高齢者は農業をするため、定年というものがなく、働けるまでずっと働いている。子供たちが近くにいないため、高齢者は自分で農業をして生計をたてている。また、孫を預けられた高齢者は自分の生活を維持する以外、孫の世話もしなければならぬため、農村労働者の都市部への労働移動は、高齢者たちに大きな負担を背負わすことになるのである(郭 2009)。

一方、都市部と比べて、農村部には高齢者施設の数、高齢者関連の公共施設の建設などが不足しており、高齢者向けの娯楽やレジャー、学習などの施設やサービスが対応できていない。農村部に残っている高齢者たちは子供たちとの交流が少ない。さらに中国国家统计局が発表したデータによると、2009年

都市部の平均収入は17,175元であるのに対し、農村部住民の平均年収は5,153元であり、3.31対1という改革開放(1978年)の開始以来、最大の開きであった²¹。そして、所得格差だけでなく、医療や社会保障の面でも大きな格差が存在している。杜蓉によると、2009年以降、都市部では基本養老保険(城镇居民社会养老保险)と基本医療保険の普及に、また農村部では、一部の養老保険を改善した新型農村養老保険の普及に積極的に取り組んでいるが、中国の養老保険は2010年時点で都市部の加入率が約38.4%であるのに対し、農村部は約15.3%と低い(杜蓉 2012)。現在、中国では全国統一の社会福祉制度は整備されておらず、地方政府はそれぞれの状況に応じて社会福祉を実施している。各地域の経済状況に大きな格差が存在しているため、福祉政策の水準にも大きな格差がみられる(李 2009)。

5. 女性の主体的生存戦略

5—1 家事労働者の生活戦略

これまで述べてきたように、都市部の再生産労働における(ケア)担い手不足は主に農村部の出稼ぎ労働者によって補填されている。都市部と農村部との間には大きな経済の格差があり、これが中国国内で生じている労働者移動の主な原因である。都市部の中流以上の階層が、経済格差を利用して貧しい農村部からの女性を奪う構造になっている。経済的に豊かな都市部がケア担い手不足の解決策を貧しい農村部に見いだすが、貧しい地域で愛やケアが余剰というわけではないからである(上野 2011)。そのために、農村部で「ケア・ドレイン」が生じ、実家に「留守高齢者」や「留守児童」の問題がでてきた。このことは、本稿の第4章第5節でみてきたとおりである。

彼女たちの実家への送金は、実家の生活の改善のために力になるが、「留守高齢者」や「留守児童」の問題は彼女たちの送金で解決することができない。もともと、女性が高齢の親、子ども、配偶者へのケアを行うべきという社会規範が強固に存在するがゆ

²¹ 中国国家统计局 HP 「2011 年城镇居民收入增长情况」
2012 年 1 月 20 日
http://www.stats.gov.cn/tjfx/jdfx/t20120120_402780174.htm

えに、女性が出稼ぎで不在になることでケアの空白ができ、親密な家族関係が維持することが困難になり、家族生活は大きな打撃を受けるのである。これは、ケアの国際労働移動で議論されてきた富める国から貧しい国への「積極的略奪」や「密漁」に類似する現象である（上野 2011）。

第4章の第1節で紹介したように、彼女たちは経済的な要因が動機になり、農村部から都市部に移動している。賃金を実家の日常生活や子供の教育、高齢者の医療費用に充て、実家の生活の改善に役立てている。そして、周囲の情報や他人の経験が彼女たちに対して大きな影響を与えている。第4章第1節に記したように、劉さんは近所に住む大連へ出稼ぎ者が経済的に成功したのを目の当たりにして大連に来た。南さんはテレビで大連には就労機会が多いというニュースで、そして于さんは仲介業者の募集広告を見て大連に出稼ぎに来たのである。

また、第4章第2節で書いたように、家事労働者は雇用者の家庭で住み込みで働き、雇用者の指示や管理、監督下に置かれているが、家事労働者に対する扱いは雇用者によって異なっている。たとえば、育児を担当している趙さんは常に長時間労働であり、いつも気を使いながら仕事をしている。王さんは賃金が高いが、人に好まれない寝たきりの高齢者の介護をしている。周さんは貴重品に触らず、雇用者の家で口数を少なくして、保守的な態度で仕事をしている。

そして、彼女たちは自分の置かれている状況を改善するために雇用者宅でさまざまなやり方で奮闘していた。彼女たちは部屋をかえてもらうためにわざと風邪を引いたり、自分の悪口をよく言う雇用者の娘を味方につけるため仲良くしたりする。また、給料を上げてもらうために、「辞める」という脅しのテクニックを使い、雇用者が不在のときを利用して上手に仕事と休みのバランスを取り、重点的に家事をこなしている。都市部での自分の生存と農村にいる家族の生存のためにさまざまなテクニックや戦略を使っているのである。彼女たちの個人的な生活戦略は、うまく行ったり行かなかったりするのだが、重要なのは何とかやっ払いこうと奮闘しているという事実である。

家事労働者が不足している都市部では、家政サービス領域が売手市場となったことで、このような彼女たちの生活戦略はさらに有効になってくるとい

える。国内の労働市場の動向によって家事労働者の時間当たりの単価は変動する。家事労働者不足が生じると、労働者の賃金や待遇が改善される。この点が、同じアジアで、グローバルな労働市場から家事労働者を調達するシンガポールや香港、台湾、マレーシアなどと大きく異なっている。

また逆説的ではあるが、家族から離れて女性たちが家事労働者として都市で働くことで、農村での彼女たちの家族が生活し、その生活が改善できるという構造になっている点は強調されてよい。つまり、雇用者に対するケアニーズを満足すると同時に、家事労働者たちの経済ニーズが充足されなければならないのである。家族の生活や子供の教育のために、奮闘しなければならないのである。学歴主義の中国都市部では大学生でもよく「就職難」と言われるが、彼女たちは高い学歴も技術もなく、「女性であること」を利用し、家を離れて都市部家庭で就労するというライフスタイルが生活手段の一つである。農村出身の女性家事労働者たちは、このような構造的状況に対応するためにうまく立ち回り、自分たちの安全と将来への変化を求める、長く続く闘いの奮闘者だと言えるのかもしれない。

5—2 家政サービス業が抱える課題

北京大学の中国科学調査センターが発表した「中国民生発展報告2012」によると、中国全土の成人のうち、既婚者の75.2%が両親と別居していることが分かった²²。以前、子供が生まれたら親に手伝ってもらい、家族で子育てをするパターンが多かったが、現在、夫婦で子育てをする若者が多いのである。夫婦共働きの家庭で仕事と家庭を両立するために、ある程度の収入がある家庭は、家事労働者の力に頼っている。しかし、都市部の共働き家庭での高齢者介護や子育ての仕事を農村部からの女性家事労働者を調達することで解消しようとする個々の家族の戦略は、家政サービス領域が売手市場となったことで、これからは再考を迫られるかもしれない。なぜなら、2001年に中国政府が「三農問題」をとりあげ、農民の負担を軽減することと、農民の収入の回復・増加を

²² 中国ビジネスヘッドライン「中国、孤独な高齢者13%超に 両親と同居する夫婦3割」2012年8月9日
<http://www.chinabusiness-headline.com/2012/08/26900/>

促進するために、農村税費改革や、農業税の廃止、農業と農村に対する政府は資本の投入など、様々の政策で農村経済の発展と農村社会の改善に着手してきたからである²³。第4章第4節で述べたように、農村部の余剰労働力を地元で吸収するシステムが作られている地域では、出稼ぎをする人が今後、減っていくことが予想されている。一方、王によると、中国政府は市場原理の活用に基づく家政サービス業を発展させ、都市部住民のニーズを満たそうとしているのだが、都市住民のニーズと言っても家族構成や所得水準などの違いにより千差万別で、決して一概に市場原理で動く家政サービスにより充たされるとは限らない。特に、中間所得層以下の住民は市場からサービスを購入する経済力が備わっておらず、社会福祉の不十分さに起因する不利益を真っ先に被るのである²⁴。また、賈は市場経済の中で、福祉関連企業や個人がビジネスとして介護や家事手伝いのサービスを提供する目的は利益追求であり、福祉の性質に合わない指摘している（賈 2004）。

現在の中国は激しい社会変動の只中にあり、経済的に成長するに伴い、様々な問題を抱えている。全員皆保険を実現していない中国では、社会福祉制度と社会保障システムの確立において、今後の国の役割が非常に重要であるのは間違いない。しかし、中国は都市部と農村部の格差、沿岸部と内陸部の格差、北部と南部の格差など、地域によって経済状況が違いため、全国統一な普遍的福祉政策を実施するのは簡単なことではない。今まで見てきた都市部で台頭している家政サービス業は社会福祉とは言えないが、都市部の福祉問題を部分的に解決できると同時に、農村余剰労働力も吸収することもでき、その意味では中国の発展にプラスの力であると言える。地方自治制度のない中国では、自治体、特に日本の市町村に当たる基礎自治体の権限と財源は極めて限られているため（賈 2004）、政府のリーダーシップに加えて、家族、企業、民間団体の協力が必要だと考えられる。

²³ 「“整村推進”的政策内容及特征」

<http://www.zgnyqss.com/news/sannong/2010/0312/18216.html>

²⁴ 中国の社会福祉はどこへ向かうのか（1）—都市部の家政婦不足 2011年9月5日

http://news.searchchina.ne.jp/dispatch.cgi?y=2011&d=0905&f=column_0905_006.shtml

参考文献（アルファベット順）

- 安里和光 2009 「東アジアにおけるケアの『家族化政策』と外国人労働者」『福祉社会学研究』No. 6 pp. 10-25
- 楚向紅 2009 〈農村婦女外出務工：動因、影響与对策—以河南省為例〉《周口师范学院学报》Vol. 26 No. 4 pp. 24-27
- 大連市2010年第六次全国人口普查主要数据公报 2011 大連市統計局
- 大連市2011年統計年鑑 2011 大連市統計局
- 杜蓉 2012 「中国の高齡化社会が抱える課題と日本企業の事業機会」『知的資産創造』
- 段成榮 楊軻 2008 〈我国農村留守儿童狀況研究〉《人口研究》Vol. 32 No. 3 pp. 15-25
- 郭永芳 2009 〈対農村留守老人養老問題の探討〉《生産力研究》No. 18. pp. 33-35
- 賀聡志 叶敬忠 2009 〈農村留守老人研究総述〉《中国農業大学学报（社会科学版）》Vol. 26 No. 2 pp. 26—34
- 賈強 2004 「変革期における中国の社会福祉—現段階の 社会福祉における家族、組織と市場の役割—」『文教大学国際学部紀要』Vol. 15 No. 1 pp. 133—146
- 鎌田文彦 2010 「中国における戸籍制度改革の動向」『レファレンス』pp. 49—65
- 李強 臧文斌 2010 〈父母外出対留守儿童健康的影响〉《経済学（季刊）》Vol. 10No. 1 pp. 341-360
- 李鳳月 2009 「中国の社会福祉における政府の責任と民間部門の連携—財政責任と財源の視点から—」『地域経済研究』No. 20 pp. 101—111
- 大橋史恵 2011 『現代中国の移住家事労働者——農村—都市関係と再生産労働のジェンダー・ポリティクス——』 御茶の水書房
- 石曉紅 2003 「中国における農民出稼ぎ労働の社会・経済背景と出稼ぎ労働者の構造的特徴」『現代社会文化研究』No. 28 pp. 119—136
- 譚深 1997 〈中国農村労働力流動的性別差異〉
- 譚深 2011 〈中国農村留守儿童研究述評〉《中国社会科学》pp. 138—150
- 上野加代子 2011 『国境を越えるアジアの家事労働者——女性たちの生活戦略』 世界思想社

- 王紅芳 藍光喜 2006 〈我国女性非正規就業現状の調査与困境分析〉《江西行政学院学报》Vol. 8 No. 2 pp. 56-58
- 向玉蘭 2010 〈浅論家政服務業婦女權益保護〉《佛山科学技术学院学报（社会科学版）》Vol. 28 No. 5 pp. 36-41
- 姚先国 胡鳳霞 2009 〈中国農村女性労働力流動研究問題総述〉《生産力研究》No. 17. pp. 189-191
- 座間紘一 2007 「中国の「農民工」の実態について」『産研通信』No. 69
- 張海英著 飯田哲也訳 2006 「中国「農民工」子女の義務教育問題と政府の責任」『立命館産業社会論集』Vol. 41 No. 4 pp. 155-166
- 趙春飛 徐舒 趙惊奇 2010 〈女性農民工社会支持研究述評〉《農業科学研究》Vol. 31 No. 3 pp. 83-86
- 趙樹海 吳愛萍 王蕾 2010 〈我国家政服務業的現状及其發展对策〉《紅旗文稿》No. 18. pp. 27-29
- 中国家政服務業現状白皮書 2011 労働保障部培訓就業司

注：インターネット情報はすべて2013年1月22日時点でアクセスしたものである。

謝辞：本研究は、大連で家事労働者として働く11名の女性と2名の雇用者の協力なしには実施しえなかった。本論文は修士論文をもとにしており、修士論文の作成においては、約2年にわたり指導教員の上野加代子教授から懇切丁寧な指導をいただいた。また『地域科学研究』の投稿の際には、佐藤征弥准教授をはじめとする編集委員会のみなさんから数多くの貴重なご指摘をいただき、修士論文をさらに改良することができた。期して感謝いたします。